

上野地区まちづくりビジョン
(たたき案)

令和元年9月6日時点

台東区

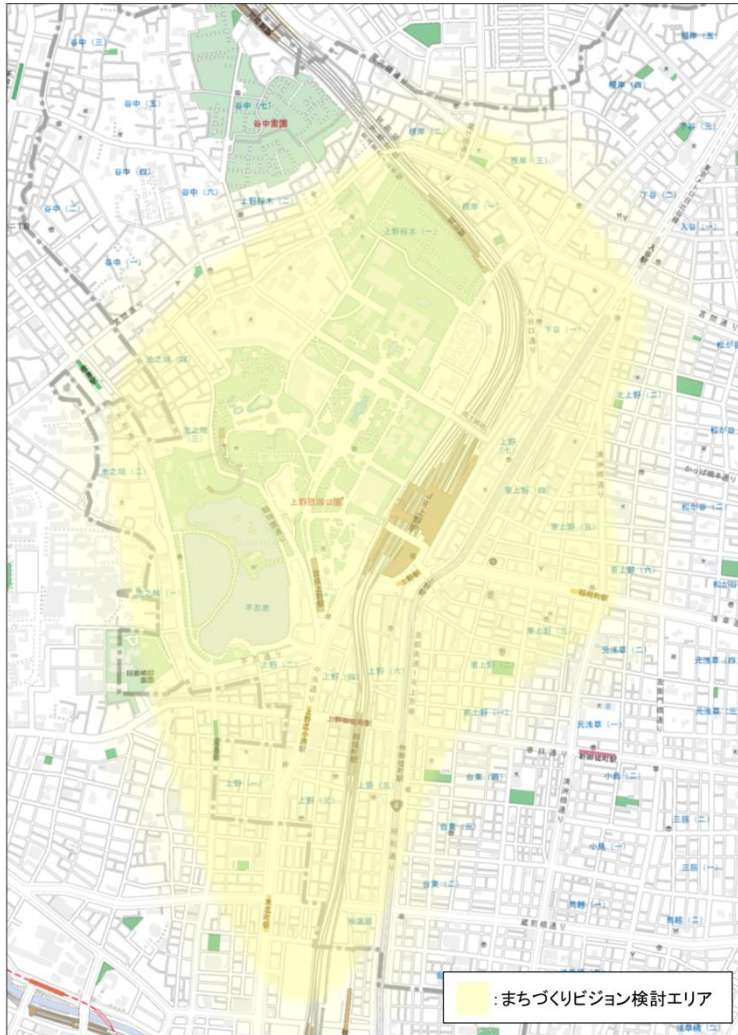
文章

目次 (p. 3)

目次

はじめに：上野地区まちづくりビジョンとは（p.4）

上野地区まちづくりビジョンとは



●まちづくりビジョン対象エリアの特徴

- ・ 上野恩賜公園を中心とする「杜」と、生活・文化が生き続ける「まち」が存在
- ・ 杜とまちの間には、地形的な高低差があり、JR上野駅の西側には崖線が広がる

●本ビジョンの検討フロー

■ 上野の歴史と現状



■ 上野への期待

■ まちづくりで大切にすべき「上野らしさ」

■ 上野の将来像

■ 取組みの方向性

■ 将来像の実現に向けて

ビジョンの目標

- ・ インバウンドにより来訪者が増加傾向にある状況に加え、2023年には、上野恩賜公園開園から150周年を迎える

こうした中、現在より概ね20年後の状況を想定し、上野地区の魅力さをさらに高めるため、関係者が共有できる**2040年代頃の上野の将来像と取組みの方向性を示す**

ビジョンの範囲

まちづくりビジョン検討エリア

- ・ 上野1～7丁目、上野恩賜公園、東上野1～5丁目の一部などを含む、上野駅及び御徒町駅周辺から秋葉原方面にかけて、地域間連携を視野に入れた広域な範囲

そのうち、

『杜』は上野恩賜公園およびその隣接地区
『まち』はアメ横、上野6・7丁目、東上野周辺等、ビジョン範囲の東側の地区を指す

1. 上野の歴史と現状 (p.5)

1. 上野の歴史と現状

(1) 上野のむかし〈歴史的背景〉

● 寛永寺の門前町として発展

武家文化と町人文化の接合点、多様な人々が自由に行き交う場所



上野仁王門絵図(歌川豊春)
(出典：国立国会図書館)



明治の庶民の花見
(出典：上野観光連盟HP)



上野広小路
(出典：上野観光連盟HP)



上野松坂屋

- 江戸期より寛永寺の門前町として発展
- 桜の名所として親しまれる
- 明治期には、上野の山一体が日本初の公園に指定され、上野恩賜公園が開園

- 下谷広小路（現中央通り）は寛永寺の参道で、徳川家ゆかりの武家文化と、まちの町人文化の接合点だった
- 明治～昭和戦前期には、山側では博物館、まち側では百貨店など様々な文化が育まれた

● 幕末から近代の激動の百年における歴史の舞台、歴史の積み重なり



震災時の上野一丁目付近
(出典：上野観光連盟HP)



上野アメ横
昭和39（1964）年
(出典：台東区教育委員会所蔵
須賀一コレクション)

- 幕末維新期の上野戦争、明治期の公園設置や内国勧業博覧会等の開催、その後の関東大震災や戦後の復興など、上野は日本の歴史の表舞台であり続けた

● 東京の玄関口



開業当時の上野駅
(出典：上野観光連盟HP)



新幹線の建設
(出典：台東区立中央図書館所蔵
高相嘉男コレクション)

- 明治16（1883）年上野駅～熊谷駅間の鉄道路線開業、昭和2（1927）年上野駅～浅草駅間の東洋初の地下鉄開業、昭和60（1985）年の東北・上越新幹線の開業など、上野は東京の玄関口として機能してきた

1. 上野の歴史と現状 (p.6)

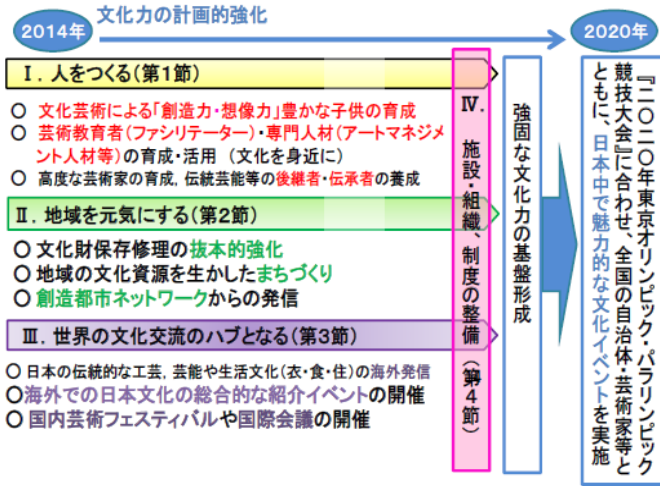
1. 上野の歴史と現状

(2) 上野のいま〈現状と課題〉

●文化・みどりの拠点

上野恩賜公園の存在と、来訪者による賑わい・混雑

文化芸術立国中期プラン (出典：文化庁)



●文化

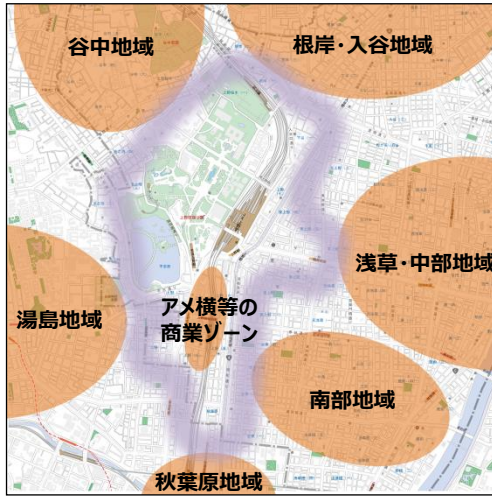
- ・ 「文化芸術立国中期プラン」において、「国立文化施設の機能強化」が位置付けられている
- ・ 歩いて回遊できる範囲内に、世界文化遺産・国立西洋美術館を含む多様かつ高度な文化・芸術関連施設が集積している
- ・ 上野恩賜公園は年間約1,213万人の来訪者が訪れる観光拠点であり、観光バスや修学旅行バスへの対応が課題
- ・ 上野恩賜公園内の施設の増床は困難

●みどり

- ・ 上野恩賜公園は都内でも有数の緑の拠点である(総面積約54万㎡)
- ・ 上野恩賜公園以外では寺社・公園内や街路樹等にみどりが点在しているが、面的な広がりはない

●谷中、湯島、浅草等に囲まれた江戸東京文化の核

アメ横、ジュエリータウン等の個性豊かな地域資源の集積



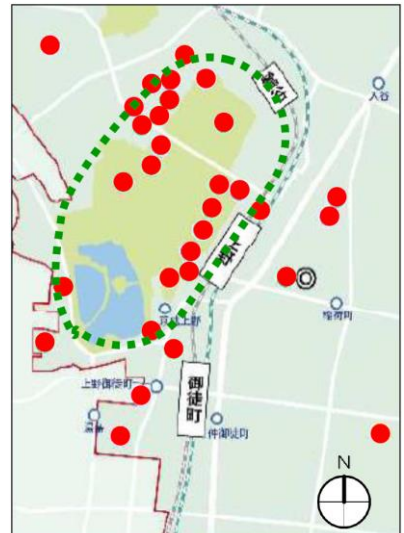
- ・ 上野地区にはアメ横等を中心とする商業や賑わいの文化がある
- ・ 周辺地区には、谷中・湯島・入谷・浅草・秋葉原など多様で特色のある資源がある
- ・ まちの良さを伝える情報発信や、来街者のためのまち案内などの機能が不足している
- ・ 豊富な地域資源を結びつける回遊性が不足している

●文化施設の集積が高い一方、商業・業務施設の集積が低い建物の更新の遅れ

- ・ 都内主要拠点の中でも文化施設の集積度が高く、「文化の拠点」として東京の魅力を支え高めている
- ・ 都内他拠点と比べ、商業・業務施設の集積度が低い
- ・ 建物の更新が進んでいない

区内文化資源マップ ▶

- : 区立文化・産業・観光関連施設、「上野の山文化ゾーン連絡協議会」及び「したまち台東芸能文化連絡会」加盟文化施設、台東区文化ガイドブック「文化探訪」掲載の文化施設



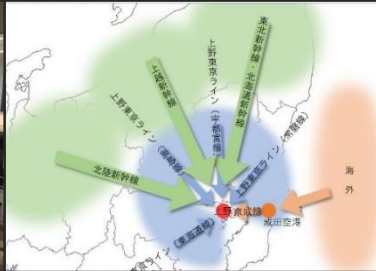
1. 上野の歴史と現状 (p.7)

1. 上野の歴史と現状

● 空港直結の日本の玄関口、交通結節点



京成スカイライナー



国内外からのアクセス性の高さ

- 上野には成田空港に直結する京成スカイライナーや、東北新幹線・北陸新幹線の発着駅があり、世界と東京、東日本と東京をつなぐ交通結節点となっている



上野駅中央コンコース

- 駅構内においても、駅としても魅力的な空間が存在するものの、公園や周辺地域とのつながりが希薄
- 様々な人が訪れる日本の玄関口、交通結節点として利用しやすく、わかりやすい空間が必要

● 都市基盤（道路）の課題

地形の高低差、個々の整備・更新の連携不足による地域空間の認識のしづらさ（わかりにくさ）



J R 上野駅前の現況



上野恩賜公園の崖線

- 上野駅正面は、国際都市の顔に相応しいおもてなし空間を創出する必要がある。また動線が複雑で視認性が低い
- まちの物理的な構造（道路、線路、高低差等）により、地区全体の回遊性が低く、公園とまちのつながりが希薄



社とまちをつなぐパンダ橋

- 上野恩賜公園側のエリアとまち側のエリアをつなぐパンダ橋（東西自由通路）は、パブリックスペースのための活用に関して、空間的にも制度的にも整備がなされていない

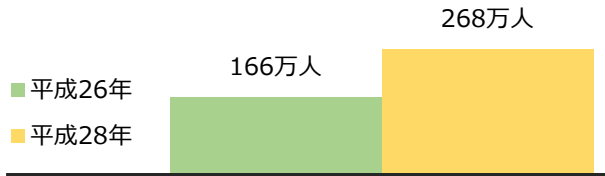
2.上野への期待 (p.8)

2. 上野への期待

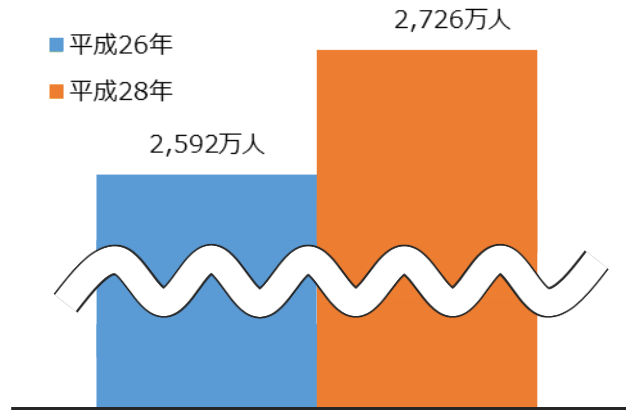
(1) 時代の要請

●観光客の増加への対応

上野地区の観光入込客数の推計
(台東区観光・マーケティング調査より作成)



宿泊観光客



観光客数



上野駅周辺の交通状況と駐車場配置

- 外国人を含む多様な来街者の増加への対応 (平成28年には、年間約2700万人が上野地区に来訪)
- 多様で質の高い宿泊機能の導入
- 関係機関が連携した違法民泊に対する取り締まりの強化
- 空港直結、交通結節点の機能強化
- 多言語化やナイトタイムエコノミーへの対応

●ポストモータリゼーションについての対応、ひと中心の都市への転換

- 自動車依存型の都市から歩行者中心の都市への転換 (ポストモータリゼーション) についての対応

- 人の滞留や活動を促すためのパブリックスペースデザイン
- パブリックスペースを活用した商業活動による地域活性化
- 歩行者、スローモビリティに対応した都市空間

2. 上野への期待 (p.9)

2. 上野への期待

(2) 上野に対する人々の期待

- **上野の活動に関わるプレイヤーの声** 「平成30年度上野地区まちづくりブランディング調査」(台東区)におけるヒアリング・アンケート調査結果より一部抜粋した意見を掲載

社のプレイヤー

学芸員・研究者



- 観光促進のため上野の各所を巡る**モデルルート**が必要
- 美術館・博物館・公園を**一体的な空間づくり**のもと連携
- **社会課題解決の場としてのミュージアム**の必要性

アーティスト



- アーティストや発信者同士の**つながりの場所づくり**
- アーティストへの**活動の場**の提供 (スタジオや展示場)
- **公園施設とデザイン**の専門家の連携 (スタッフの常駐等)

寺の住職・
神社の神職



- 上野の原点としての寛永寺の周知
- **公園と寺・神社の連携**
- **江戸期の景色を再現**するスポットの整備

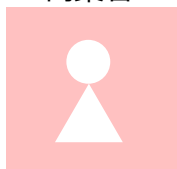
まちのプレイヤー

住民



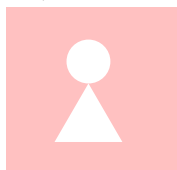
- 魅力的な**百貨店**や、利便性の高い**買い物環境**の必要性
- ポケットパーク等の**居場所**の必要性
- 住民や来訪者、住民同士の**交流機会・場所**の必要性
- **若者や女性向け**の場所づくり

商業者



- **古いものや施設**の活用(外国人向けのゲストハウスなど)
- **現代的な手法**で発信していく必要性
- **商人・職人ネットワーク**がないことにより、まちの発展を遅らせる危惧

ものづくりに
携わる人



- 上野の**歴史的な背景**による魅力、**古いもの**の活用
- 店や施設の**情報を発信する場所・ツール**の必要性
- **ポップアップストア** (期間限定店舗) 用のスペース創出
- **クリエイター・職人がつながるための場所・機会**
- **伝統工芸**をはじめとする**多様なものづくり文化**の継承、ポップアート含めた、**新しいカルチャー**の導入

2.上野への期待 (p.10)

2. 上野への期待

● 杜、まち、杜とまち全体に対する期待

杜とまちに関わるプレイヤーの声のまとめ

杜のプレイヤーの声

- ・ アーティストの交流
- ・ 公園と施設の連携
- ・ 活動場所の確保
- ・ 江戸の継承

まちのプレイヤーの声

- ・ 住民やクリエイター・職人の交流
- ・ 情報発信の場所・ツール
- ・ 居場所の必要性
- ・ 多様な人々を惹きつける魅力
- ・ 伝統と新しさの融合、多様性

杜、まち、杜とまち全体への期待

杜に対する期待

- ・ 文化・芸術分野に従事する人たちに選ばれる空間・制度の整備
- ・ 公園と周辺施設を連携させた一体的な空間整備
- ・ 江戸を感じられるスポットの整備

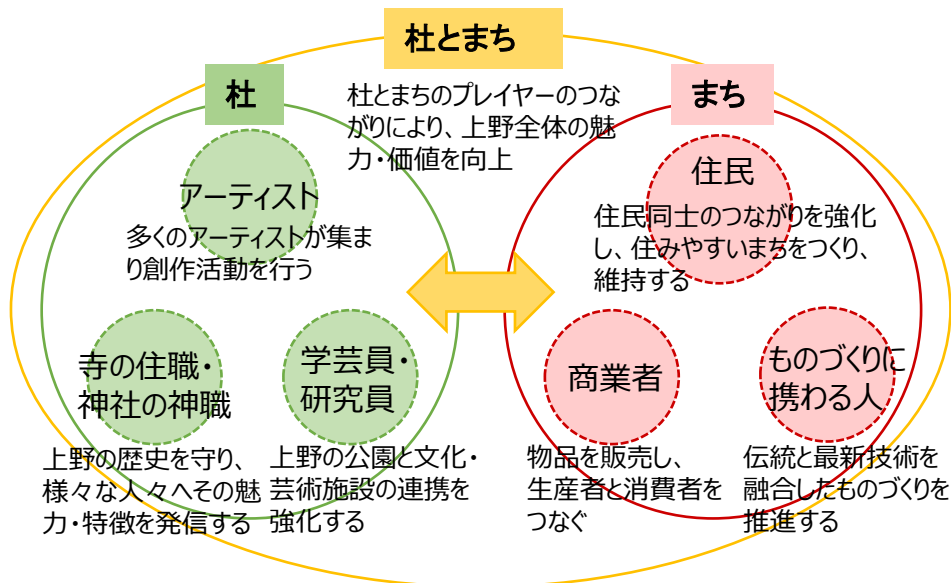
杜とまち全体に対する期待

- ・ 杜とまちで活動を行う多様な人々が交流するための場づくり
- ・ 杜・まち全体の魅力・価値を発信していくための体験・情報拠点の整備

まちに対する期待

- ・ 住民が居場所となる自由に滞在可能なオープンペースや施設の整備
- ・ 若者、外国人を含めた多様な人々を惹きつけるためのブランディング

上野におけるプレイヤーの展開



3.まちづくりで大切にすべき「上野らしさ」(p.11)

3. まちづくりで大切にすべき「上野らしさ」

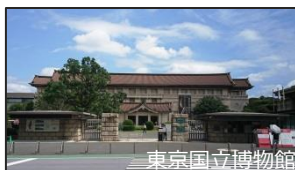
●上野を特徴づける「杜」と「まち」

「世界の粹(すい)」: 杜が誇る、多様かつ高度な文化・芸術に関連する施設・人・ものすべてを示す(杜: 上野恩賜公園およびその隣接地区を指す)

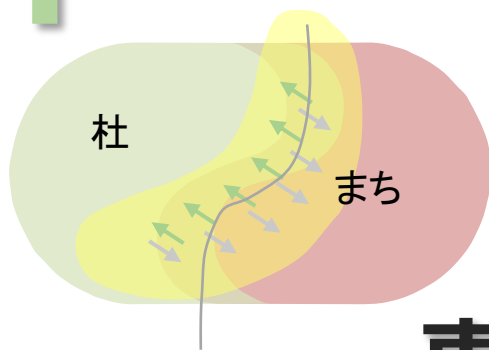
●世界文化遺産を含む多様かつ高度な文化・芸術関連施設が集積「杜」

「文化芸術立国中期プラン」にて、美術館や博物館、音楽ホール等「上野の杜」への来訪者数の目標が、3000万人(2020年時点)とされており、今後の成長が期待されている

歩いて回遊できる範囲内に、世界文化遺産・国立西洋美術館を含む多様かつ高度な文化・芸術関連施設(「粹・すい」)が集積している



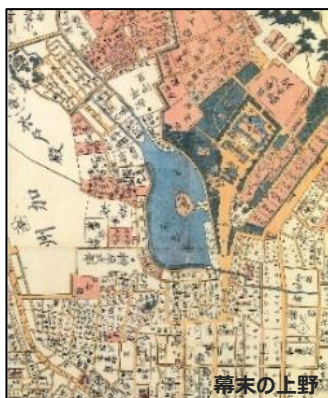
すい
世界の粹



いき
東京の粹

「東京の粹(いき)」: まちが包摂している長い歴史に培われてきた多様で特色ある営みや生活・文化を示す(まち: アメ横、上野6・7丁目、東上野周辺等、ビジョン範囲内の東側の地区を指す)

●多様で特色のある文化・歴史資源が集積「まち」



幕末から近代の激動の百年の主役として、歴史が培ったアメ横、ジュエリータウン、コリアンタウン、ものづくり文化等の個性的で多様なエリア・資源が集積している(多様性を包摂する「粹・いき」が存在する)

地域で生活する人々による、歴史ある多様なコミュニティが存在。地域の祭りや運動会等の主体的な活動が行われ、現在も強固なつながりがある

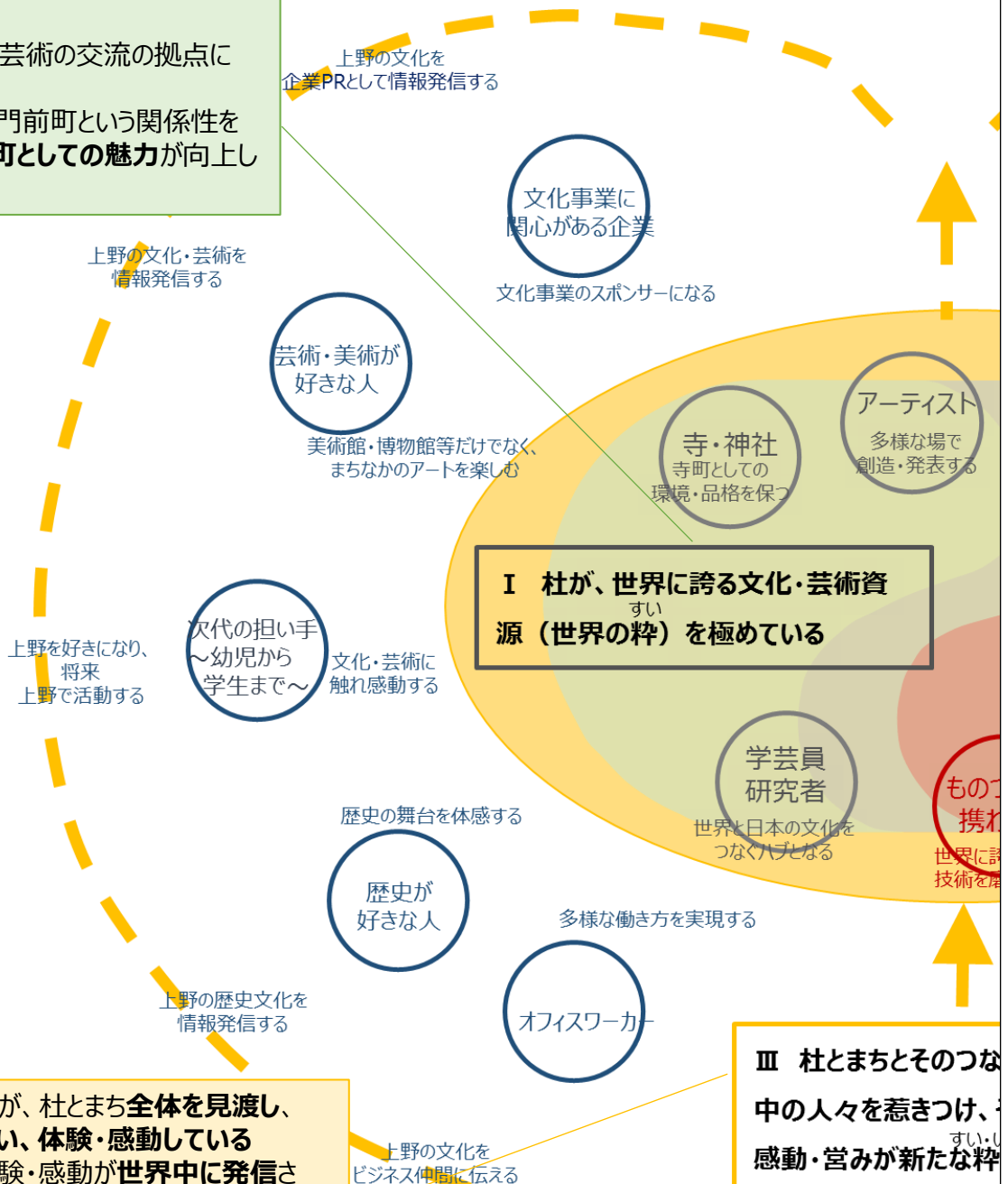
4. 上野の将来像 (p.12)

4. 上野の将来像

杜の文化とまちの賑わいが共演する舞台“上野”

～世界の粋・東京の粋～

- 杜をこえた多種多様な場で人々と関わりながら、文化・芸術が創造・表現されている。
- 世界の文化・芸術の交流の拠点になっている
- 寛永寺とその門前町という関係性を活かして、寺町としての魅力が向上している

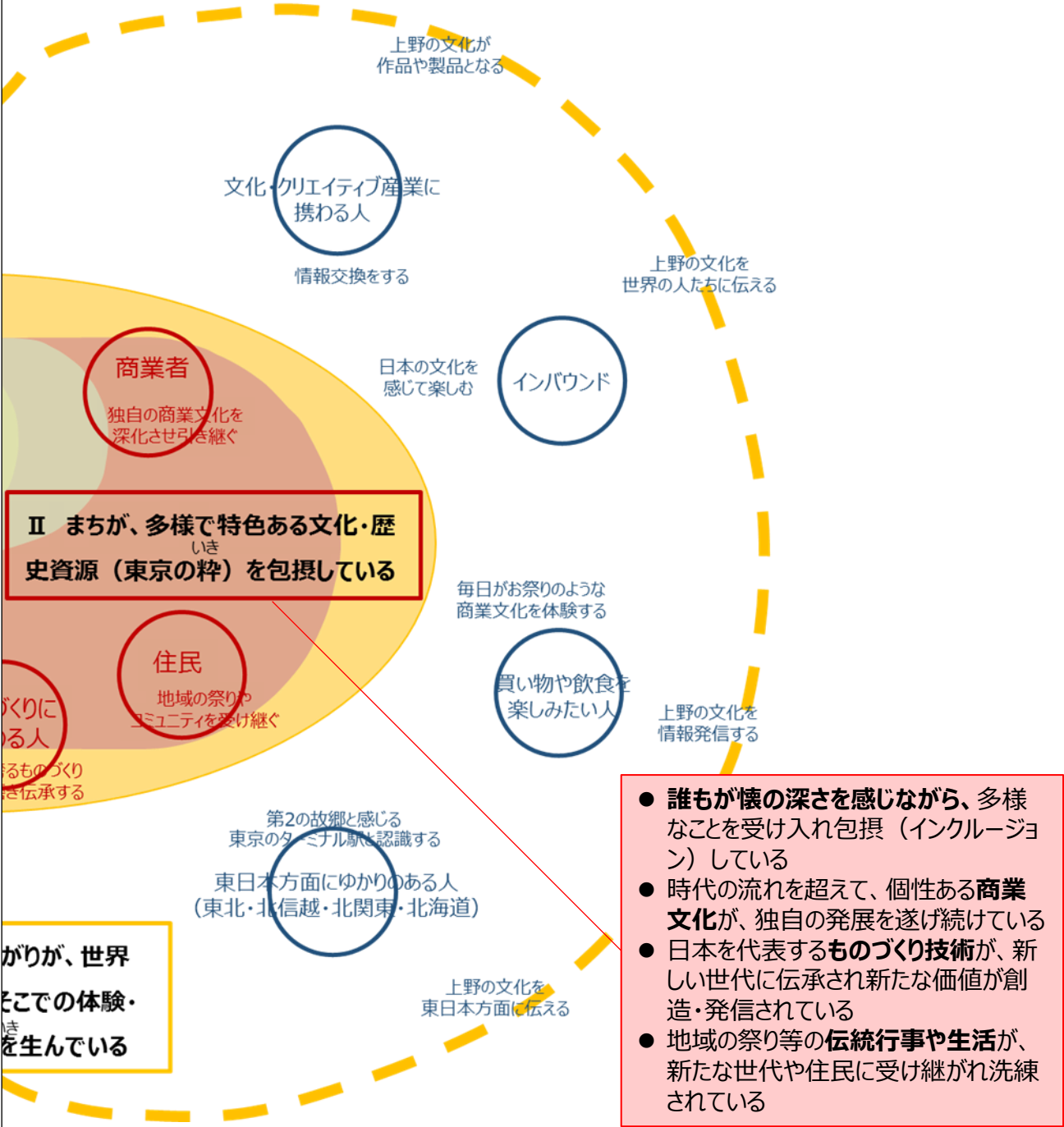


- 世界中の人々が、杜とまち全体を見渡し、自由に行き交い、体験・感動している
- 杜とまちでの体験・感動が世界中に発信され、惹かれた人々が次々に上野を訪れている
- 杜とまちでの体験・感動をきっかけに、惹かれた人々が上野で新たな営みをはじめている

III 杜とまちとそのつながりの中の人々を惹きつけ、感動・営みが新たな粋

4. 上野の将来像 (p.13)

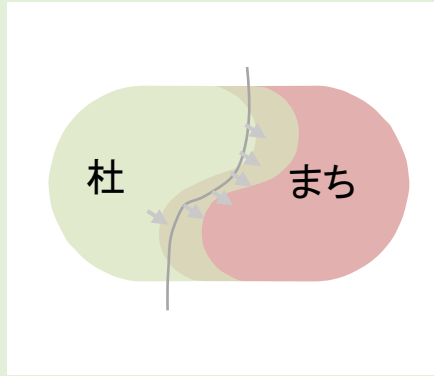
すい・いき
 ~ 粋がもたらす人々の体験・感動・営みが、さらなる粋を生み、
 文化・芸術が無限に成長するまち ~
 すい・いき



5. 取組みの方向性 (p.14)

5. 取組みの方向性

■ 杜を磨き、杜をひろげる



- ◆ 杜の資源の価値・魅力を高める都市機能の強化
 - <杜①> 杜・駅・まちを活用した、文化・芸術の創造・表現の場をつくる
 - <杜②> 杜・駅・まちを活用した、文化・芸術の交流の場をつくる
- ◆ 杜の賑わい向上に向けた環境づくり
 - <杜③> 都市公園としての機能や賑わいの維持・向上
- ◆ 杜の活動の連携体制の構築
 - <杜④> 杜全体を支えるマネジメント体制の構築

杜① 杜・駅・まちを活用した、文化・芸術の創造・表現の場をつくる

【取組み内容】

- <杜①-1> 杜の文化・芸術の創造・表現・展示スペースの拡充(例:美術館分館、イベント広場、多様なプレゼンスペース、大空間の導入)
- <杜①-2> 杜の文化・芸術の創造・表現・展示の活動の拡充(例:地域回遊アートプログラム・歴史的な文化資源活動プログラムの実施)
- <杜①-3> 杜の文化・芸術の発信の強化(例:ミュージアムショップ・オークションハウス・体験型ミュージアムの導入、レプリカ技術展示)
案内機能の強化(例:デザインを統一した共通案内板の増設、インフォメーションセンターの設置)
- <杜①-4> 不忍池の文化利用の推進(例:水辺を活用したパブリックスペースの再生、文化・芸術活動での水辺利用、自然環境の維持)



広場を活用した展示スペース



開かれたプレゼンスペース



地域コミュニティと連携するための拠点

杜② 杜・駅・まちを活用した、文化・芸術の交流の場をつくる

【取組み内容】

- <杜②-1> 文化・芸術の交流の核となるMICE機能の拡充(例:バンケットルームを併設するホテル)
- <杜②-2> 文化・芸術の研究・人材育成やインキュベーションを促進する機能の整備(例:サテライトキャンパス、コワーキングスペース、サロン・カフェ、技術や研究のプレゼンスペース)

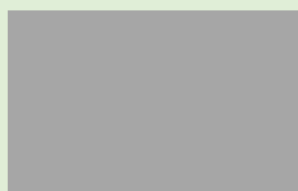
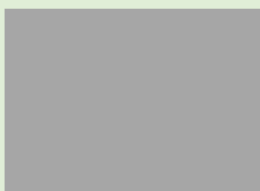


5. 取組みの方向性 (p.15)

社③ 都市公園としての機能や賑わいの維持・向上

【取組み内容】

- <社③-1> 地域防災に貢献するための防災拠点の整備(例:防災備蓄庫の整備、簡易救急対応の医療施設の整備、大規模休憩スペースを兼ねた帰宅困難者の受け入れ施設の整備)
- <社③-2> 公園内の移動や周辺地域との回遊性を高める環境整備(例:公園内の歩行者ネットワークの強化、周辺地域と公園との回遊性を高める拠点整備(アート・クロス等)、二次交通の検討)
- <社③-3> 上野恩賜公園内の滞在場所の整備(例:団体向け屋内休憩所・屋根付き無料休憩所の整備、ベンチの増設、芝生広場の整備)
- <社③-4> 子供の文化的接触や知育を視野に入れた既存託児サービスの拡充

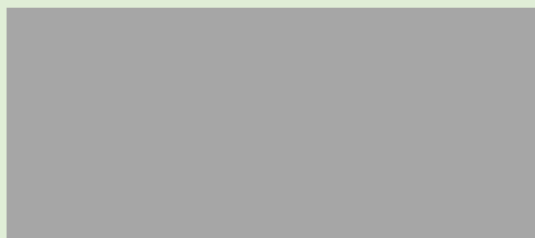


アート・クロスの整備

社④ 社全体を支えるマネジメント体制の構築

【取組み内容】

- <社④-1> 社のマネジメント体制の構築
(例:マネジメント組織の法人化、各館連携プロジェクトの実施等)
- <社④-2> 各館連携した共同展示や共同保管施設の整備



■コラム 上野の杜における資源・構想

「国立西洋美術館」の世界文化遺産の認定

「国立西洋美術館」は「ル・コルビュジエの建築作品」の構成資産（7カ国17施設）のうちの1つとして、2016年7月17日に世界文化遺産に認定された。
認定の際には、コルビュジエが提唱した「無限成長美術館」という美術館空間の新しいコンセプトを示している点が評価された。

上野「文化の杜」新構想

上野公園周辺の各機関・団体が相互に連携・協力することで、それぞれが保有する文化芸術資源の潜在価値をより顕在化させ、その資源の有効活用と相乗効果の増大を促し、上野公園恩賜公園を中心とした区域を新たに「文化の杜」として位置づけ、日本のみならず国際的な文化の中心・シンボルとするための構想。



上野 文化の杜
UENO Cultural Park

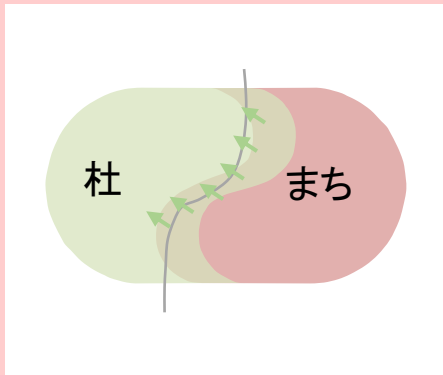


「UENOYES」とは、上野文化の杜新構想実行委員会が2018年より開始している文化プロジェクトのコンセプト。社会包摂をテーマに上野公園とその周辺地域で文化芸術活動や交流を展開し、上野から日本の文化の魅力を世界に発信する。

5. 取組みの方向性 (p.16)

5. 取組みの方向性

■ まちを育て、まちをひろげる



◆「上野らしさ」の価値をあげる都市機能の強化

<まち①> 杜・駅・まちを活用した、世界中の人々を惹きつけ迎え入れる案内・交流の場をつくる

<まち②> 来街者に安全安心を提供するエリア防災力の向上

<まち③> 上野で住み、働くための都市機能の強化

◆将来の変化に対応したしなやかな都市空間の形成

<まち④> 積み重ねた歴史が息づくまちの景観や賑わいのルールづくり

◆懐の深さを未来へつなぐプラットフォームの構築

<まち⑤> まち全体を支えるマネジメント体制の構築

まち① 杜・駅・まちを活用した、世界中の人々を惹きつけ迎え入れる案内・交流の場をつくる

【取組み内容】

<まち①-1> まちの資源の案内・サービス機能の強化(例: インフォメーションセンターの整備(歴史を知るウォーキングツアー拠点等含)、アンテナショップ・手荷物預かり所・チケット販売所等の整備、シェアリング機能の導入、多言語化対応)

<まち①-2> まちの交流機能の導入(例: ものづくり体験の実施、体験型ホテル導入、公共空間でのイベント実施、コワーキングスペースの整備)

<まち①-3> まちの滞在機能の整備(例: 休憩スペース(フリーWiFi・充電機能・トイレ等含)・眺望機能・屋外広場の整備、みどりの充実)

<まち①-4> まちの情報発信機能の強化(例: ロゴデザインの策定や統一的なサイン計画、ペナント・サインポスト・デジタルサイネージ等の整備)



まち② 来街者に安全安心を提供するエリア防災力の向上

【取組み内容】

<まち②-1> 平時の営み(まち①、③、④、⑤)の中で実現するエリア防災力の向上
～防災【も】まちづくり～

- ・防災活動拠点の充実
- ・滞留者一時滞在施設等のスペース確保(例: 地下空間の活用)
- ・防災備蓄庫・非常用発電機の整備等
- ・中央通りにおける帰宅困難者対策と災害時の道路空間活用(例: 歩行者天国の実施検討(社会実験))

5. 取組みの方向性 (p.17)

まち③ 上野で住み、働くための都市機能の強化

【取組み内容】

- <まち③-1> 商業・業務・宿泊・住宅等の多様で質の高い都市機能の導入
- <まち③-2> 職住近接の都心居住の促進とまちへの愛着を継承する地域コミュニティの強化



地場産品を展示・販売する体験型ホテルの例

民間施設における観光案内所の例

公共空間における地域イベントの例

まち④ 積み重ねた歴史が息づくまちの景観や賑わいのルールづくり

【取組み内容】

- <まち④-1> まちづくり憲章(理念)の策定
- <まち④-2> 建物の更新ルールづくりとまちなかにおけるオープンスペースの創出
- <まち④-3> 景観形成ルールづくり(中央通り・学問のみち等)
- <まち④-4> 道路空間の活用のルールづくり
 - ・中央通りにおける歩行者天国の実施検討(社会実験)
 - ・アメ横及び周辺地域での商業の集積を活かした適正な道路利用(例:荷捌きの集約・道路活用)



中央通りの将来イメージ

まち⑤ まち全体を支えるマネジメント体制の構築

【取組み内容】

- <まち⑤-1> まち全体として戦略的に実施すべき取組みや、エリアにおける共有財産を主体的に管理・活用する、既存組織に横串を通し・支えるエリアマネジメント組織・体制づくり



エリアマネジメント組織・体制のイメージ

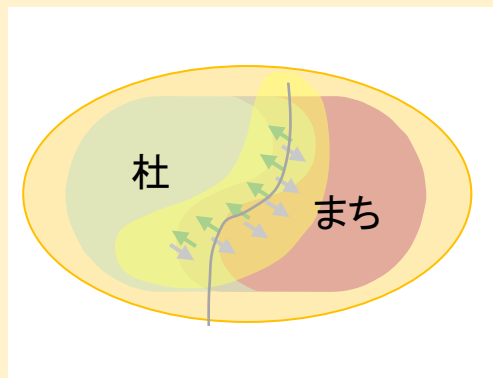


例：おかちまちパンダ広場でのイベント開催

5. 取組みの方向性 (p.18)

5. 取組みの方向性

■ 杜とまちを重ね、つなげる



◆ 杜とまちを分かりやすくつなぐ都市空間の創出

- <杜まち①> 杜とまちを自由に行き交うことができる、ひと中心の空間活用と歩行者ネットワーク強化による回遊性向上
- <杜まち②> 日本の玄関口となる交通結節点として、国際都市の顔に相応しいおもてなし空間の創出

◆ 杜とまちの相乗効果を生み出す都市機能の導入

- <杜まち③> 杜とまちが重なる場所に、杜とまち全体を体験・感動できる機能の導入・誘導
- <杜まち④> 上野を訪れ、上野で住み、働くための都市機能の強化

◆ 地域の価値・魅力向上のための『杜-駅-まちマネジメント』

- <杜まち⑤> 杜～まちをつなぐマネジメント連携体制の構築

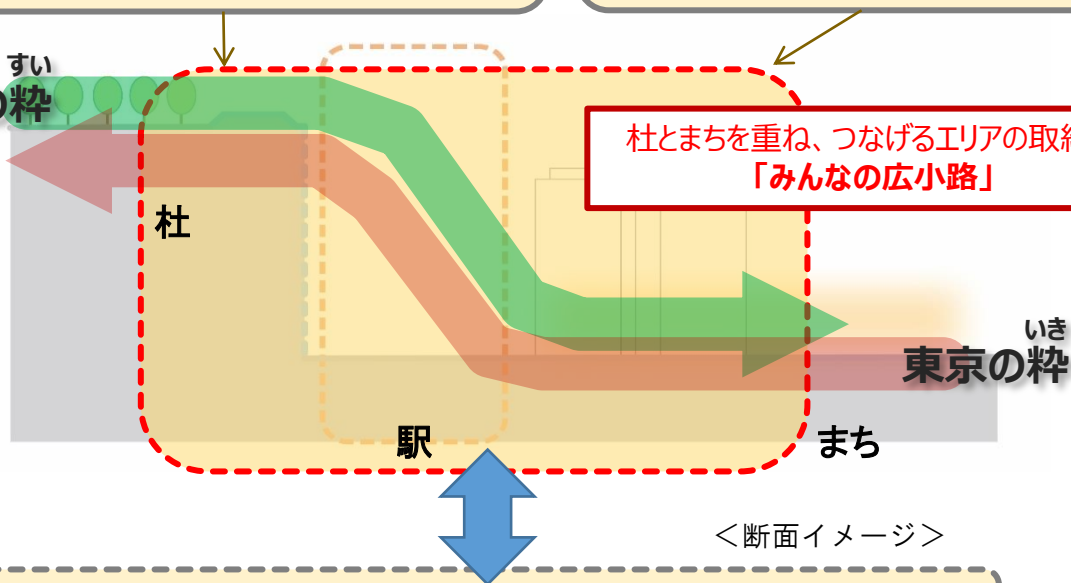
◆ 杜とまちを分かりやすくつなぐ 都市空間の創出

- 杜とまちを自由に行き交うことができる、ひと中心の空間活用と歩行者ネットワーク強化による回遊性向上
- 日本の玄関口となる交通結節点として、国際都市の顔に相応しいおもてなし空間の創出

◆ 杜とまちの相乗効果を生み出す都市機能の導入

- 杜とまちが重なる場所に、杜とまち全体を体験・感動できる機能の導入・誘導
- 上野を訪れ、上野で住み、働くための都市機能の強化

すい
世界の粹



<断面イメージ>

◆ 地域の価値・魅力向上のための『杜-駅-まちマネジメント』

「みんなの広小路」

寛永寺の参道にあたる「下谷広小路」(現中央通り)は、明暦の大火以降、江戸幕府により延焼防止の火除け地として広大な更地を確保して大空間が創出されたが、江戸の町人たちはそれを放っておかず、次第にその空き地に仮設の小屋を建て始め、賑わいの場へと変貌した。

「みんなの広小路」は、上野の将来像における『杜まち』の人々みんなて共有し活用する舞台(都市空間)として、現代に甦る『広小路』となる。

5. 取組みの方向性 (p.19)

杜まち① 杜とまちを自由に行き交うことができる、 ひと中心の空間活用と歩行者ネットワーク強化による回遊性向上

【取組み内容】

- ＜杜まち①-1＞上野恩賜公園とまち、駅及び周辺エリアをつなぐわかりやすい歩行者ネットワークの整備
- ＜杜まち①-2＞上野恩賜公園とまちの情報を集積・周知し、上野地区全体の情報収集が可能となるまちなかインフォメーションセンターの設置
- ＜杜まち①-3＞都市基盤要素による分断(高低差)を解消するため、アクセス視認性を確保した縦動線の整備
- ＜杜まち①-4＞避難場所である上野恩賜公園への避難動線の確保

杜まち② 日本の玄関口となる交通結節点として、 国際都市の顔に相応しいおもてなし空間の創出

【取組み内容】

- ＜杜まち②-1＞上野恩賜公園とまち、駅をつなぐ国際都市の顔に相応しい風格ある歩行者広場空間の創出
- ＜杜まち②-2＞既存の道路や駐車場機能の再編、駅を中心とした交通機能の集約による、わかりやすい交通結節点の創出

杜まち③ 杜とまちが重なる場所に、杜とまち全体を体験・感動できる機能の導入・誘導

【取組み内容】

- ＜杜まち③-1＞杜とまち全体の賑わい向上に資する、杜がひろがる機能(例:文化・芸術の創造・表現・交流の場、まちなか展示スペース、みどりの充実)や、まちがひろがる機能(例:観光・防災拠点)の導入
- ＜杜まち③-2＞杜とまちが見渡せる視点場、杜とまちから見える象徴的空間の整備(建築物・アート作品等)

杜まち④ 上野を訪れ、上野で住み、働くための都市機能の強化

【取組み内容】

- ＜杜まち④-1＞商業・業務・宿泊・住宅等の多様で質の高い都市機能の導入
- ＜杜まち④-2＞上野恩賜公園の文化施設が保有する日本有数の文化財等を活用した、ホール・展示機能を兼ねた質の高い宿泊施設の誘致
- ＜杜まち④-3＞国際会議やシンポジウムが開催可能なホール等(MICE機能)の導入
- ＜杜まち④-4＞上野恩賜公園とまちをつなぐ駅及び駅周辺エリアでの共同託児所の整備(例:通勤者や区民利用も可能な生活利便施設の併設)

杜まち⑤ 杜～まちをつなぐマネジメント連携体制の構築

【取組み内容】

- ＜杜まち⑤-1＞世界文化遺産「国立西洋美術館」をはじめとした地域の多様な資源を活用した、地域特性に応じた景観のルールづくり
- ＜杜まち⑤-2＞駅周辺における導入機能の運営・管理のためのマネジメント体制の構築
- ＜杜まち⑤-3＞平常時の避難訓練、防災時の避難誘導等の防災機能を備えたマネジメント組織の充実



地域特性に応じた景観ルール設定 (「台東区景観計画」)

5. 取組みの方向性 (p.20)

5. 取組みの方向性

(1) 対象エリア全体の方針図

作成中

5. 取組みの方向性 (p.21)

作成中

5. 取組みの方向性 (p.22)

5. 取組の方向性

(2) 杜エリアの方針図

■ 杜を磨き、杜を広げる

◆杜の資源の価値・魅力を高める都市機能の強化

<杜①> 杜・駅・まちを活用した、文化・芸術の創造・表現の場をつくる

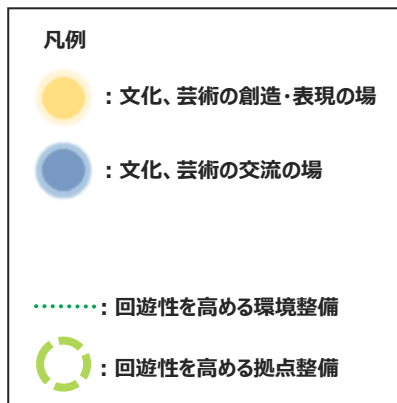
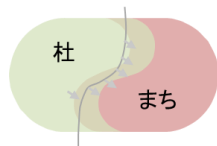
<杜②> 杜・駅・まちを活用した、文化・芸術の交流の場をつくる

◆杜の賑わい向上に向けた環境づくり

<杜③> 都市公園としての機能や賑わいの維持・向上

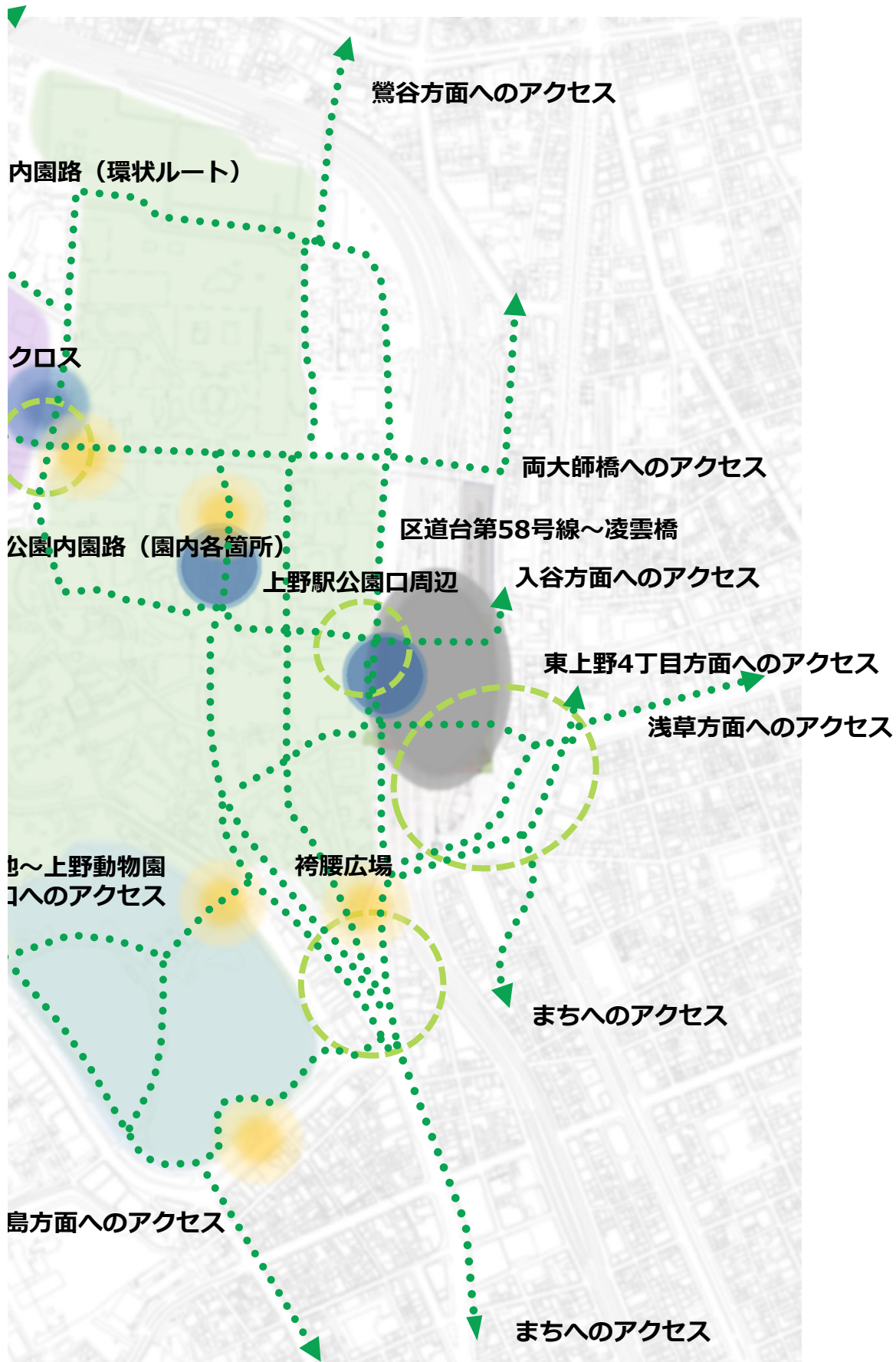
◆杜の活動の連携体制の構築

<杜④> 杜全体を支えるマネジメント体制の構築



※上記の矢印等の表現については、検討項目の考え方を示したものであり、実際に整備される施設、場所等を明示したものではありません

5. 取組みの方向性 (p.23)

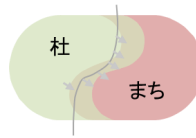


5. 取組みの方向性 (p.24)

5. 取組みの方向性

(3) まちエリアの方針図

■ まちを育て、まちをひろげる



◆ 「上野らしさ」の価値をあげる都市機能の強化

〈まち①〉 杜・駅・まちを活用した、世界中の人々を惹きつけ
迎え入れる案内・交流の場をつくる

〈まち②〉 来街者に安全安心を提供するエリア防災力の向上

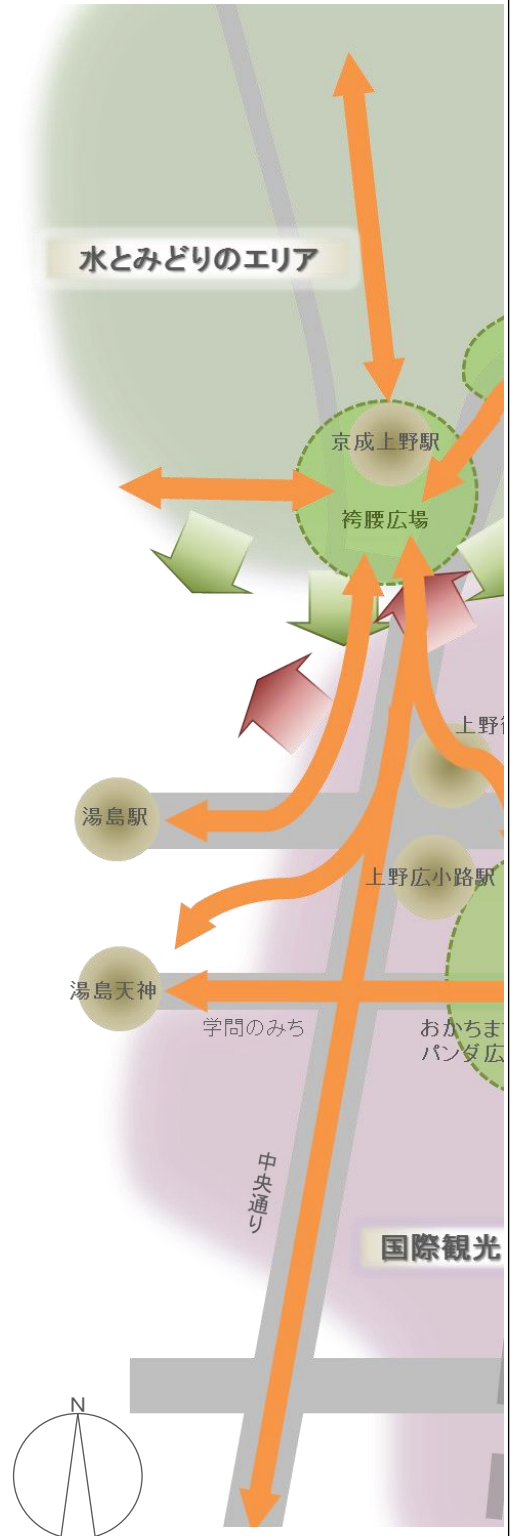
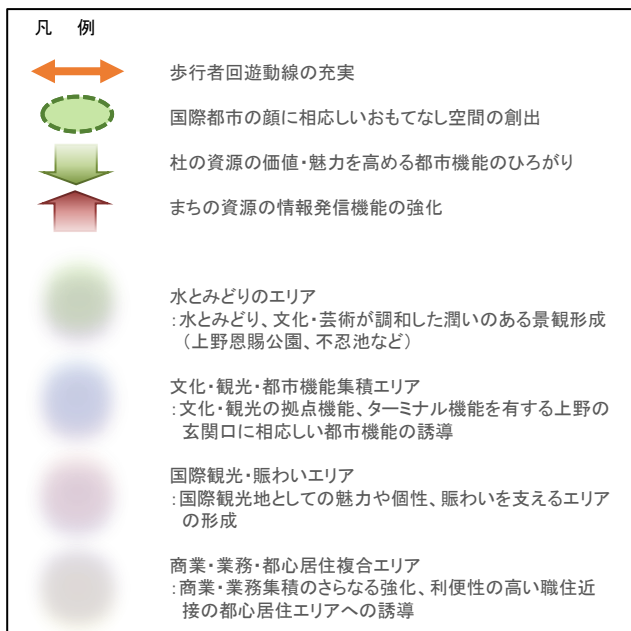
〈まち③〉 上野で住み、働くための都市機能の強化

◆ 将来の変化に対応した しなやかな都市空間の形成

〈まち④〉 積み重ねた歴史が息づくまちの景観や賑わいの
ルールづくり

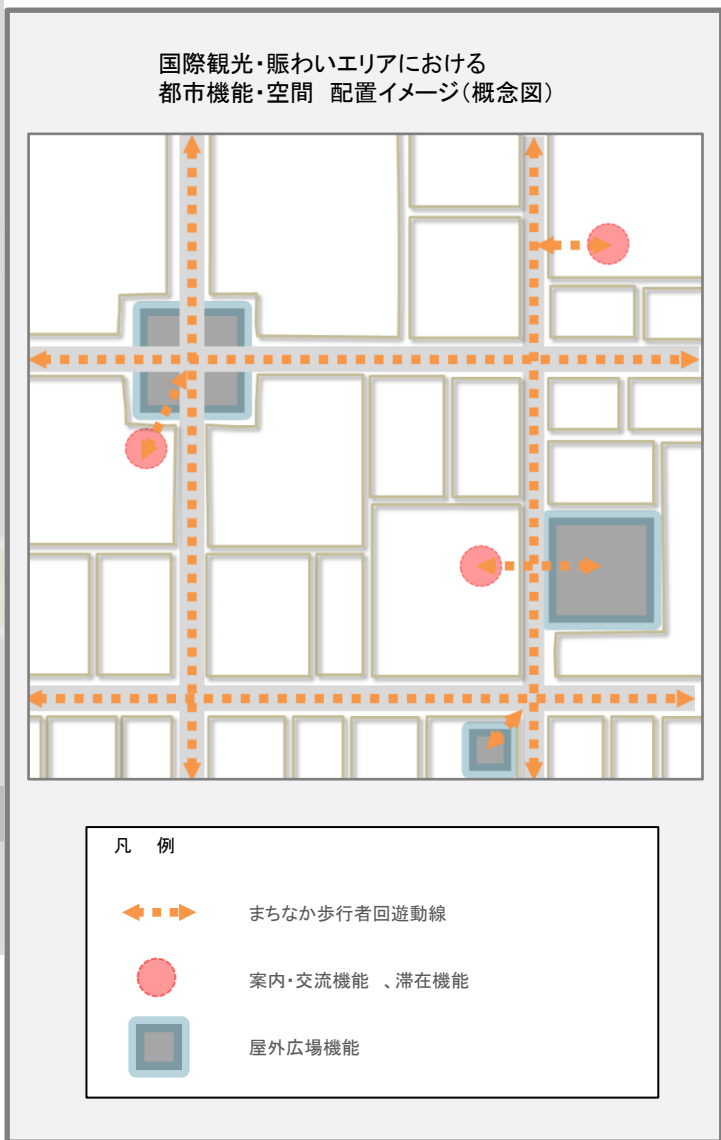
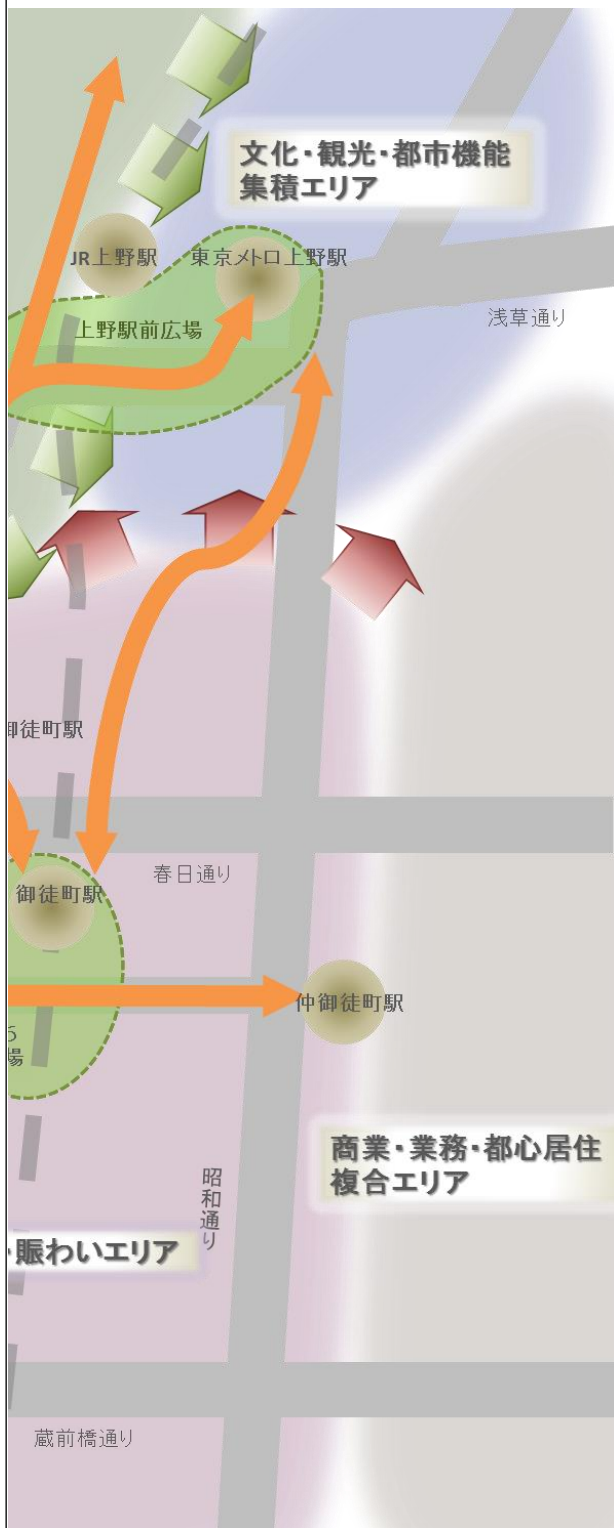
◆ 懐の深さを未来へつなぐプラットフォームの構築

〈まち⑤〉 まち全体を支えるマネジメント体制の構築



※上記の矢印等の表現については、検討項目の考え方を示したものであり、実際に整備される施設等を明示したものではありません。

5. 取組みの方向性 (p.25)



5. 取組みの方向性 (p.26)

(4) 杜まちエリアの方針図

作成中

5. 取組みの方向性 (p.27)

作成中

6. 将来像の実現に向けて (p.28)

6. 将来像の実現に向けて

(1) まちづくりの実現に向けた目標スケジュール

- 2040年代頃のビジョンの将来像実現に向けて、短期・中期・長期の大きなスケジュール目標を設定の上、まちづくりを推進する
- 短期的には、ビジョンの実現・事業化に向けた推進体制の構築や事業化検討の深度化、イベント等のソフト施策と連携した取組みなどを中心に推進する
- 中期的には、本格的な事業推進に向けて実施すべき先行事業や、見本となるリーディングプロジェクトを中心に推進する
- 長期的には、将来像を実現する本格的なまちづくり事業を推進し、まちづくりの総仕上げを実施する

年代	短期 (2020年代)	中期 (2030年代)	長期 (2040年代)
主な節目	2023年 関東大震災100年 2025年 寛永寺開基400年 2027年 銀座線開通100年	2032年 JR上野駅舎落成100年 2033年 京成上野駅開業100年	2047年 台東区発足100年
社を磨き 社をひろげる	社の資源の価値・魅力を高める都市機能の強化 社の賑わい向上に向けた環境づくり 社の活動の連携体制の構築		
まちを育て まちをひろげる	「上野らしさ」の価値をあげる都市機能の強化 将来の変化に対応したしなやかな都市空間の形成 懐の深さを未来へつなぐプラットフォームの構築		
社とまちを重ね つなげる	社とまちを分かりやすくつなぐ 都市空間の創出 第Ⅰ期	社とまちを分かりやすくつなぐ 都市空間の創出 第Ⅱ期	社とまちを分かりやすくつなぐ 都市空間の創出 第Ⅲ期
	社とまちの相乗効果を生み出す都市機能の導入 地域の価値・魅力向上のための『社-駅-まちマネジメント』の構築		

(2) 多様な主体の協働によるまちづくりの推進

まちづくりの多様な主体による将来像の実現

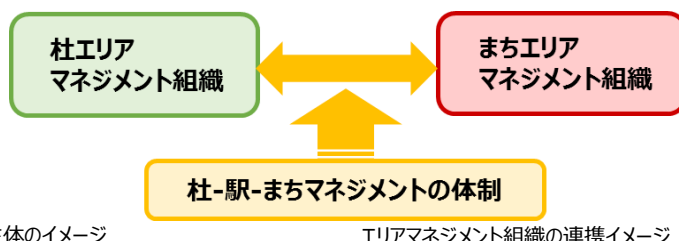
上野地区にかかわる様々な人々や組織が、それぞれの役割を認識し、協働によるまちづくりに取り組む



(3) 社とまち全体を支えるマネジメント体制の構築

社・駅・まち周辺のエリアマネジメント組織の連携体制を構築

それぞれのエリアにおける機能・施設間の連携により、上野地区全体の回遊の促進、機能分担等により、地区全体の価値の向上を目指す



巻末 (p.29)

会議の構成（検討体制）と検討の経緯

作成中

上野地区まちづくりビジョン策定委員会

作成中

奥付

台東区